



大東亞戰爭と

同盟對外放送陣の活躍

通信局長 鷹 嘴 壽

國際報道戰今や酣

大東亞戰爭勃發以來報道陣は對内對外の區別なく全機能を擧げて只管報道戰の使命完遂に邁進してゐるが、就中全世界を相手に熾烈な思想戰を展開し、日夜國際報道戰場に火花を散らしてゐるのは對外報道陣である。與國及び少數の中立國以外國際通信ルートが全く斷絶の今日、各國共に恃みとするのは放送電波による戰である。ラジオによる海外放送に、無線電信による國際放送に、各國ともこゝを先途と戰つてゐる。

東亞における米、英、蘭の敗退は、管にロイター、A.P.、U.P.等の東亞總退却に止まらず全世界をあげて會てこれら強大通信社の隸下にあつた中小諸國の報道機關をしてその羈絆を脱せしめ、自主獨立性を執るに至らしめた。このことは世界思想戰史上に特筆されるべき重大事といはねばならぬ。

英米は思想戰でも惨敗

大東亞戰爭の推移は正に世界人類の運命を決するものである。日本を中心とする大東亞の刻々の動きを電波にのせて晝夜を分たす同盟本社内の無電室から歐洲、米洲へ、大東亞へと放射線を描いて全世界の隅々までも脈動させてゐるモリス符號の機械的な響きこそは實に世界史の轉換を告げる世紀の警鐘であり、二十億の人類に明日の運命を知らせる深刻な叫びなのだ。世界いづれの小國と雖もこのニュースに聴耳を立てぬものがあるらうか。ルーズヴェルトはコレヒドールの陥落に耳を掩はんとした。チャーチルは珊瑚海海戰

を報告未着の故をもつて發表出来ぬと頑張つたが、われらの電波は容赦なく世界中の耳朶を打ちまくる、眞實の響きを傳へてゐる。思想戰上における我等の巨彈は各國の受信アンテナに、レシーヴァーに悉く命中彈となつて炸裂してゐる。米英が何と胡魔化しようとしても、如何にデマ放送に躍起になつても事實の報道の前には打ち向ふ術はない。

最近齎された米國の内情によるとニュースは事毎に我が方に壓倒されて不本意ながらもこれで紙面を飾らなければ仕方がない實情にあるさうだ。彼等がもつとも狂氣して喜んだ日本空襲の報道すらも東京から放送された電文その儘を大々的に掲載して有頂天の有様だつたといふに至つては、如何に彼等が思想戰においても惨敗の悲境にあるかと判る。

第七十五號
月六年七十和昭
行發日十
行發日十・回一月每
錢五部一價定
錢十六(共稅)分年一
一才 田杉 監發行發
國公谷比日區町市東京東
社信通盟同 所行發

つて世界中の新聞紙面を埋め、ラジオの放送材料となり、世界人類の目から目へ、耳から耳へと傳はつて行くのだ。

上り、さらに二重發射の電波を加へるときは實に總延時間七十一時間算する實況である。それに從事する海外部、大陸部華文部の陣容は百名を突破し、放送無線に從事する電信技術者等を加ふるときは實に百五十名の大部隊である。放送内容の取材編輯については本社編輯局をあげてこれに協力し、また關係各機關とも緊密な聯絡をとり眞に舉社一致の努力と學國的内容を盛つた名實共に國家代表通信としての權威と機能發揮に最善の努力を拂つてゐる。

一、歌詞 同盟精神を謳ひ、わが社の擔ふ重き使命と大なる任務を強調せるもの
一、作品 同盟職員自作のもの
一、縮切 本年六月末限り
一、原稿には匿名を用ひ封筒には所屬社局および氏名明記のこと
一、宛名 本社文書部社歌懸賞係
一、賞金 一等五百圓、佳作薄謝
ひつくり有様は想像に絶するものがある。

最近齎された米國の内情によるとニュースは事毎に我が方に壓倒されて不本意ながらもこれで紙面を飾らなければ仕方がない實情にあるさうだ。彼等がもつとも狂氣して喜んだ日本空襲の報道すらも東京から放送された電文その儘を大々的に掲載して有頂天の有様だつたといふに至つては、如何に彼等が思想戰においても惨敗の悲境にあるかと判る。

七つの海に君臨した大英帝國の刻々に崩壊して行く姿を報ずる我が方のニュースは英本國にとつて聴くに忍びぬ苦痛であるに相違ない。日本の放送ニュースに耳を閉ざさんとしても、ドイツがイタリヤが、その他各國が、それぞれの持つ無數の電波によつて同盟ニュースを繰返し、再放送する。

一通信社内にかかる大規模の放送設備と陣容を備へてゐるのは恐らく他に比をみないところで、皇軍の赫々たる大戦果に、國內鐵石の構へに、大東亞の輝しき建設状況に、我等の報道陣は晝夜を分たす大活動を續けてゐる。

これらは直ちに各國の反響を呼び、種々の形となつて打返されて來る。樞軸國と反樞軸國とはもちろん反響の相違がある。これに對しては直ちに新しいニュースをもつて應酬し、認識の誤つたものや故意に曲解したものも徹底的に駁撃すると共に我が方の公正な立場主張、實相等をますます普及徹底せしめ寄せては返すニュースの波は極めて敏感に刻々思想戰の勝敗を決して行く。(以下次頁へ續く)

本社新館新築上棟式は五月二十六日午前十時より内幸町二丁目二十番地の建築現場において官幣大社日枝神社禰宜祭主となり、古野社長、各常務理事、各局長、各部長その他ならびに建築關係者參列の下に厳かに執行された。



本社新館新築上棟式は五月二十六日午前十時より内幸町二丁目二十番地の建築現場において官幣大社日枝神社禰宜祭主となり、古野社長、各常務理事、各局長、各部長その他ならびに建築關係者參列の下に厳かに執行された。

本社新館新築上棟式は五月二十六日午前十時より内幸町二丁目二十番地の建築現場において官幣大社日枝神社禰宜祭主となり、古野社長、各常務理事、各局長、各部長その他ならびに建築關係者參列の下に厳かに執行された。

我が社の『兵器』自給へ

同盟技術研究所の使命

今般本社附屬機關として「技術研究所」が設立され五月一日から業務を開始した。これは従来わが社の通信機材を擔當してゐた電務部世田谷分室を獨立せしめ、その機構内容を擴充整備して自主的運営の機能に積極的に發揮せしめんとする主旨に基いたものである。

そもそも通信社の通信機器は軍の兵器と同様、不斷の研究改良によつて常に最新鋭の状態に置かれねばならぬことはいふまでもない。しかもそれは一般共通のものではなく、複雑多岐な通信社の業務に適合して正確迅速の目的を完全に果し得るものでなければならぬ。

通信界に一大革命

わが社も夙にこの點に鑑み、十數年前から小規模ながら通信機の改良研究、殊に電送機の研究に力を入れて来たのであるが、支那事變勃發と共に前線および基地用無線機製作の必要が續出したのを機會に、昭和十三年七月本社に技術部が設けられ、電送機の研究並行して無線機設計製作に着手し用してゐる。

イタリヤ、スペインその他各國からも同様の報告が頻々と來てゐる。同盟放送の受信先は全世界を網羅してゐるが、現在判明せるものは左の通りで、この他の各國も與國たるに敵國たるに第三國たるを問はず何等かの方法により必ず利用してゐることはその反響により明かである。

同盟對外放送陣の活躍

(前頁より續く)

各國の反響

同盟放送の反響乃至利用状況に關し海外の報告を二、三擧ぐれば左の如し。

【ドイツ】開戦以來の同盟放送の内容はDNB通信社を通じラジオ新聞等により大々的に發表され、全歐に對する宣傳上壓倒的偉力を發揮し、その使命を遺憾なく果してゐる。

【トルコ、ブルガリヤ】皇軍戰果に關する同盟放送は目下トルコ及びブルガリヤの新聞に大々的に掲載され、ブルガリヤ通信社では同盟の英佛語放送を受信し盛に利用してゐる。トルコのアナトリー通信社も同様、直接受信して大に利

た。バイアス灣敵前上陸の第一報を内地に傳へたのは實にその第一號機であつた。

爾來戰局の進展に伴ひ無線機の需要はますます増大し、實地經驗の貴重な資料と不斷の研究によつて構造的に改良に次ぐ改良が加へられ、大東亞戰爭以來強力な新鋭無線機が續々製作され、南方地域に送り出されつゝある。

一方國內向けについても一昨年五月以來實施された國內同報無線の各地受信施設は全部その設計製作を行つた。また國內専用線の特種増幅装置その他各種機器が實務側の要求に應じて續々と作り出された。さらに特筆すべきことは多年待望されてゐた本邦独自の文字電送機の研究が漸く完成し、最近いよいよ實用化の域に達したことはある。この點に關してはいづれ稿を改めて發表する機會があると

思ふが、兎に角これが正式實施の

曉には本邦通信界に一大革命を齎らすとともに、大東亞一帯にとつて多大の貢獻をなし得るものと確信する。

機構及び事業概要

本社技術部はその後規畫部と合併し、さらに電務部と改稱されたが、社業の發展と大東亞戰爭の勃發により通信機構はますます擴大増強の一途をたどり、機器の研究製作もいよいよ本格的強化の必要が痛感されるに至つたので、昨年十月内幸町の舊館から世田谷の新作業場へ移轉、以來内容整備に努めてゐるが、今般さらに目黒および品川の部品工場をその統制下に置き、ここに第一次整備が出来上つたのを機會にいよいよ五月一日から新機構の下に發足することとなつた。

新制度による技術研究所の機構目的および事業の概要は左の通りである。

一、名稱 社團法人同盟通信社技術研究所

二、目的 通信報道事業の發達に資するため通信施設および機器の改良、維持ならびに製作に關する研究をなし、その應用を圖ること

三、事業概要 前項の目的達成上必要な施設をなし、通信報道用機器の研究、設計、製作、修理および供給並にこれに關聯する一切の事項

四、事務所および分業場

△本部 世田谷區上北澤一ノ四〇八(電話世田谷二九一七)

△目黒分業場 目黒區中目黒二ノ五〇八(電話大崎三〇七七)

△品川分業場 品川區大井町二二二(電話高輪二二六五)

五、機構 所長の下に總務、業務技術の三部を置き、所長は總務通信局長これを兼ね、總務部長は前地方部長近藤雨齋氏、業務部長は前大阪支社技術主任上野伊三郎氏、技術主任は前電務部機械主任奥地寛治郎氏がそれぞれ任命され、總務部長の下に會計(部長兼、庶務(杉山清太郎氏)兩主任を、また技術部長の下に電氣(部長兼、機械(杉本三郎氏)兩係長を、更に機械係長の下に機械(杉本志一氏)仕上(係長兼)の兩主任を置き別に顧問として多年機器の研究發明に造詣の深い杉本太氏が就任した。

陸海兩省 日本新聞會 主催 報道戰士慰靈祭

滿洲事變、支那事變、大東亞戰爭の三つの戦線に従軍、殊勳を樹つたも華と散つた全國各新聞通信社、日本映畫社、放送協會、陸海軍囑託の報道戰士六十五柱の靈を祭祀してその偉勳を顯彰する陸海兩省ならびに日本新聞會主催の殉職報道戰士慰靈祭は五月十一日午前十一時から日比谷公會堂で神式により厳かに執り行はれた。

定刻東條陸相、嶋田海相をはじめ鈴木金書院總裁、八田鐵相、谷情報局總裁、西尾大將等來賓および主催者側、二百餘名の遺族をはじめ二千餘の一般參列者が着席すれば齋主秋岡日枝神社宮司以下の齋員着床して嚴かに祭式は進められた。修成、獻饌に次いで祭主谷萩大佐、東條兼攝陸相、嶋田海相それ、祭文を奏し續いて齋主、祭主をはじめ遺族、參列者順次玉串奉奠を行ひ、奏樂裡に撤饌があつて午後零時半祭式を終了した。

故鯉江正木氏葬儀

シンガポール攻略戦で報道陣の華と散つた陸軍一屬わが社連絡員故鯉江正木氏の郷里愛知縣常滑町々葬は故小西實兵衛と合同で六月五日午後二時から母校の同町國民學校講堂において佛式により営まれた。式は天澤院住職、瀧澤寺院代導師となつて進められ、永井町長の弔詞、瀧澤師團長、關係部隊長相川知事(何れも代理)古野同盟社長(荒井名古屋支社長代理)、各團體代表の拜禮があり、ついで遺族、近親者の焼香が行はれ、常滑高女、國民學校生徒が靈前で唱歌を合唱、同四時閉式した。

東印度諸島 同	東亞同	比 島 同	其他南方各地 同	濠 洲 同	イ ン ド 同	ソ 聯 同	イ タ リ ヤ 同	フ ラ ン ス 同	ス ペ イ ン 同	南 阿 同	ブルガリア 同	トルコ 同	イ ラ ン 同	ギリシヤ 同	ルーマニア 同	米 國 同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

東亞同	比 島 同	其他南方各地 同	濠 洲 同	イ ン ド 同	ソ 聯 同	イ タ リ ヤ 同	フ ラ ン ス 同	ス ペ イ ン 同	南 阿 同	ブルガリア 同	トルコ 同	イ ラ ン 同	ギリシヤ 同	ルーマニア 同	米 國 同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

カ ナ ダ 同

ブラジル 同

アルゼンチン 同

其他各國 同

政府機關又は新聞社

宣傳の力は究極するところ内容の眞實性と報道の迅速性によつてのみその眞價を發揮する。米英のデマ宣傳に對し事實に基き我が方の堂々たる報道振りは皇軍の大戦果と共に常に敵陣營を壓倒し、中立諸國をして益々我が方に對する信頼の念を高からしめ、その動向を決せしめる原動力となりつゝあることは一に皇國威の然らしめる所で、世界史創造の聖戰に報道報國を使命とする我等にとつてこれに過ぐる感懐はない。(六一)

かくて五月一日を期してスタートを切つた本研究所は全員五十四名一團となつて最新鋭の報道用機器を目指し、その一つに同盟魂の籠つた機械を作り出すべく眞剣の努力が傾注され、報道報國の一翼として技術奉公の使命完遂に邁進してゐる。(技術研究所長 鷹崎壽)

勉學・鍊成・共助 青年團員に勸む

本社青年團副團長 大平 安孝

△取返しのつかぬ時代▽

子供は家の寶であり、國の寶である。子供の將來がよくなるか否かは各家庭がよくなるか否かであり、國がよくなるか否かである。同盟四千の同志のうち一千名の青年を同盟は國から、家庭から預つてゐるわけである。一千名の寶を預つてゐる同盟はその一人一人を眞實に立派な日本國民として育てあげる責任を持つてゐる。そのため同盟青年團を組織して青少年が自治的鍊成をなす機構を作つたわけである。

醒して社内の青少年の實情をみて歩いたり、私等に注意したりする青少年時代は人の一生の中で一番大切な時期である。この時代に勉學しなかつたら、あとで勉強するの何倍かの努力と不便とがともなふ。

二十五、六歳にもなれば社會人としての生活が必要になるため、どんなに眞面目な、素質の優れた青年でも勉強する時間が少くなる。そればかりではない。記憶力が減退して勉強に適しない年齢となる。故にもつとも記憶力の旺盛な時代にあつて後悔しないだけの勉強をして置かなくてはならないのである。

これと同時に性格の基礎は諸君の年頃、即ち一生の中で、もつとも感受性の強い現在が大切な人間は健康に注意し、修養して正しい生活をするのが肝要である。諸君の年頃では僅かばかりの金が多いとか、仕事がかたかといふことは諸君の將來のために何にもならない。一寸サボつてねころんでゐたところで諸君の健康をよくするわけではない。一人がサボれば他の誰かにその負擔がかかつて来る。またサボる習慣がついたら、それは大變だ。一生仕事に身がつかない。胡魔化しをする習慣をつける。これは正しくない生活への始まりとなり、努力心を失つて人間としてもつとも大切な信用のなれれば多くなつてしまふ基礎を作る。また少しばかり小遣錢が多く入つたところで映畫でも見たり、コーヒーでも飲んだりするとなくなつてしまふ。そして金を浪費する習慣がつくと悪いことをするやうな恐ろしい人間にさへなる。

△同盟青少年の使命▽

われわれ日本國民は全部 陛下の赤子である。先づ第一に君のため國のために人間とならねばならぬといふことを心懸けねばならない。殊に青年團員たるわれわれは來るべき日本帝國を背負うて起つ責任を負はされてゐる大切な人間なのだ。われわれが偉くならなければ日本帝國はよくなる。の自負心を持ち、しつかりした人間にならなければならない。殊に同盟の將來はわれわれ同盟

青年團員の双肩にあるのだといふ責任感と自信を持つて、しつかりした目的を立て、着々と自分を磨いて行かねばならない。

△勉學・健康・協力▽

大切な一生の基礎を築く青年時代にふらふらと目的なしにやつてゐたのでは眞實に同盟をよくし、國をよくする立派な國民となることは出来ない。故にしつかりした目的を立て、着々と自己を磨いて行かねばならない。即ち

一、最も大切な勉強時代であることを自覺し熱心に勉強しなければならぬ。絶対に學校を休んではいけない。勉強時代にサボつて一生に悔を残すやうなことをしてはいけない。學校教育なにかなんだ實力さへあればそれでよいのだといふ考へもある。人間は實力がなくてはいけない。しかし實力を養ふには學校に行つて勉強する必要があるし、ちやんと學校を出なければその實力を世間に對し證明するものもないといふことを考へねばならない。

職員會彙報

本社 例 班長會議

本社定例班長會議は五月十五日午後五時より會議室において開催。熱誠に満ちた討議が續けられた。劈頭森幹事長より班長全員改選の件を提案、

一、五月三十一日までに班員確認班再編成の上班長改選を行ふこと、但し特殊事情により最近において新たに班長を選出したところではそのまま留任を認むることに決定。

一、庭球部、ピンポン部、弓部、釣部、ハイキング部の現状報告と「社員各自の施設」として各

△性格の基礎▽

班長の積極的協力希望あり。一、準社員の手當の問題に對し對策委員會を構成し、至急具體的意見案を作成することに決定。一、食パン等夜勤サーヴィス改善等に關し報告あり

最後に職員會過去一年間の業績を回顧して進藤君（總務局第一班）より「本會の任務たる第二の「會員の親睦・共済・福利厚生」の點についてはみるべき成果を収めたが、第一の「社業の改善刷新及び事務の能率増進」の點についてはなほ遺憾の點が多かつた旨を述べ特に少年ボーイ諸君の育成問題について社員の協力を要する意見開陳あり。

同盟大阪講習會開催

新聞通信に必要な技術を教へるかたはら、同盟精神を叩きこもうといふ同盟大阪講習會は四月十五日から大阪支社分室で開講された。募集人員三十名に對し百五十名の多數が應募、嚴密な入試の結果粒選りの二十五名を採用した。

高橋總務部長以下各部長が講師として出勤、毎晩五時半から熱心にタイプ指導や、電鍵を叩き、速記の鉛筆を運ばせ、生徒も張り切つて勉學にいそんでゐる。

京城支社の社員常會

京城支社では毎月八日の大詔奉

戴日に社員常會を開いて淺野支社長以下全社員が參集、國民儀禮ののち社務に關する諸種の協議懇談を行ふが、さる五月の常會には前大本營陸軍部報道部長馬淵逸雄大佐がひよつこりと姿をみせ、一場の挨拶をもつて全社員を激勵し、さらに社員との間にいろいろと有意義な懇談を交し、深い感銘を與へた。

（寫眞は社員常會懇談會、中央の黒の背廣が馬淵大佐）



二、健康に注意しなければならぬ。昔から「命あつての物種」とか、「健全なる精神は健全なる身體に宿る」といふて身體の健康はもつとも大切である。どんな良い考へを持つてゐても身體が弱くては實行出来ない。然らば身體を丈夫にするにはどうしたらよいかといふと出來るだけ規則正しい生活をするのである。朝は早く起き、適度の運動をする。のみ過ぎ、食ひ過ぎのときは氣をつけなければならぬ。同盟本社では諸君の健康をよくして行きたいといふ考へから毎日ラジオ体操をやつてゐるのに諸君の中には參加しないものがある。これは健康上よくないばかりでなく、團體生活の出來ない人となつて常に仲間はずれとなる性格を作る虞れもある。殊に諸君の年頃が呼吸器病などの病魔に犯され易く、一方病氣の回復も早い時期であり、健康の上からいへば甚だ大切な時期であるといふ點を考へねばならぬ。

三、青年團員同志は仲よく各々の責任を果す習慣を作らねばならない。自分の分擔は必ず自分でやり、むしろ他人の分までも手傳ふからの努力しなければ仲よく親しみ合つて行くことが出來ない。互に助け合ふといふ習慣をつければ自然仲よく、各自の責任をも全ふすることが出来るのである。

右のごとき心懸けを持つてしつかりやつてよき青年團員となる。さうすることが家庭のためにも、國のためにもよき人間になることなのである。諸君しつかり勉強し健康に注意し、國のためになる人間にならうではないか。

人事異動

【四・五月】

國內

通信局長 鷹嘴 壽

通信局技術研究所長 齋藤 壽

通信局地方部長 福井 輝三(通)

通信局地方部長 近藤 勇梨

通信局勤務(技術研究所) 上野伊三郎(大阪)

經濟局外經部長 塚本・義隆

編輯局外信部長 萩原 忠三

調查局情報部長 小寺 巖

經濟局外信部長 小寺 巖

編輯局外信部長 入江啓四郎

編輯局外信部長 熊木 啓作

經濟局內經部長 中川 義次

臺北支局局長 中川 義次

通信局地方部長 日笠多賀之助

(高雄支局出張中)

本社(歸還)命ス

通信(中川延次郎(總)

總務(大竹 貞雄(通)

川崎(小林重次郎(岡谷)

大分(鈴木 宗雄(通)

宮崎(伊野田重雄(關門)

奈良(中村 壽雄(大阪)

編輯(安井 徹(通)

編輯(德永 康信(南支)

北支總局華文部長 酒井 忠俊

北支總局華文部長 松原 一夫

北支總局華文部長 岩本 清

北支總局華文部長 岩立 一郎

北支總局華文部長 佐々木健兒

北支總局華文部長 坂田 寛藏

南支總局編輯部長 坂田 寛藏

編輯(上田 節子(北支)

北支總局華文部長 猪股 芳雄

北支總局華文部長 酒井 忠俊

北支總局華文部長 松原 一夫

北支總局華文部長 岩本 清

北支總局華文部長 岩立 一郎

北支總局華文部長 佐々木健兒

北支總局華文部長 坂田 寛藏

編輯(相原 琴子(同)

北支總局華文部長 猪股 芳雄

北支總局華文部長 酒井 忠俊

北支總局華文部長 松原 一夫

北支總局華文部長 岩本 清

北支總局華文部長 岩立 一郎

北支總局華文部長 佐々木健兒

北支總局華文部長 坂田 寛藏

編輯(山本勇司(盛岡)

北支總局華文部長 猪股 芳雄

北支總局華文部長 酒井 忠俊

北支總局華文部長 松原 一夫

北支總局華文部長 岩本 清

北支總局華文部長 岩立 一郎

北支總局華文部長 佐々木健兒

北支總局華文部長 坂田 寛藏

編輯(吉原一真(編)

北支總局華文部長 猪股 芳雄

北支總局華文部長 酒井 忠俊

北支總局華文部長 松原 一夫

北支總局華文部長 岩本 清

北支總局華文部長 岩立 一郎

北支總局華文部長 佐々木健兒

北支總局華文部長 坂田 寛藏

編輯(山口一穂(鹿兒島)

北支總局華文部長 猪股 芳雄

北支總局華文部長 酒井 忠俊

北支總局華文部長 松原 一夫

北支總局華文部長 岩本 清

北支總局華文部長 岩立 一郎

北支總局華文部長 佐々木健兒

北支總局華文部長 坂田 寛藏

互助會報告

【五月分】

△出 産

大澤安一(總務) 長男

片山 薰(廣島) 同

末次 遊(關門) 長女

伊藤壽雄(編輯) 同

井下悦二(調査) 同

細川英孝(通信) 同

田中一夫(北支) 同

菊地幸作(同) 三男

鹽崎義雄(岡谷) 四男

△結 婚

藤本有典 編輯

春日武彌 同

伊藤卓二 同

高橋四郎 同

藤本重俊 同

福屋不二夫 同

池田雄藏 同

中村敬一 同

小川 優 同

木村四郎 同

松原弘雄 同

△應 召

益田信行 (西貢)

△見 舞

龜井光太郎 病氣

廣瀬 勘次 同

松尾トミ 同

本田忠尚 同

△出 産

大澤安一(總務) 長男

片山 薰(廣島) 同

末次 遊(關門) 長女

伊藤壽雄(編輯) 同

△退 社

高 山 泰 子 編輯

田中 三 子 同

後藤 みゆき 同

内 田 とし 同

藤 井 昌 子 同

小 林 好 己 同

井 上 正 一 同

谷 岡 勝 一 同

大 木 有 同

村 山 有 同

竹 俣 一 郎 長崎 實母同